

■ 『「具体」から「抽象」へ』言語活動1 評価の観点

評価規準	評価基準		
	A (十分満足)	B (おおむね満足)	C (改善の手立て)
<b>1 知識・技能</b>			
言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 [(1)ア]	抽象的に表現することが対象の本質をつかむことにつながるとことを理解し、具体化や連想のような思考方法とも関連づけて考えることができています。	抽象的に表現することが対象の本質をつかむことにつながるとことを理解できている。	「学習1」「学習2」を振り返らせ、事物を言葉で抽象的にとらえるとはどういうことかを再確認させる。
<b>2 思考・判断・表現</b>			
「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 [B(1)キ]	日常生活の中から抽象的思考の例を適切に挙げ、抽象的思考の利点がわかるように説明できている。	日常生活の中から抽象的思考の例を挙げ、わかりやすく説明できている。	例をいくつか提示し、どのような点が抽象的思考と言えるか考えさせる。
<b>3 主体的に学習に取り組む態度</b>			
文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組んでいる。	指示に従って学習課題に取り組んでいる。	まずは条件を考慮せずにまともめてみるよう促す。